



株式会社福島医療サービス 保原薬局本店

〒960-0611 伊達市保原町城ノ内57-1

TEL：024-575-2109

「キビタン健康ネット 利用施設の声」の第19回目は、株式会社福島医療サービス(保原薬局)代表取締役社長 薬剤師 高野真紀夫さんにお話を伺いました。福島医療サービスは、県北地域の14か所に薬局を展開しており、「患者の目線に立つ～最後にかける一言は服薬指導を超える～」を2022年のスローガンとして、患者さんへの声掛けを意識して取り組みされているそうです。患者さんが求めている情報や、どうしてほしいのかということを最優先に考え、薬剤師一人ひとりが患者さんの目線に立った行動を心がけています。健康相談会も定期的に開催しており、地域の患者さんに寄り添いながら多くの方の健康を支えています。

◇「キビタン健康ネット」をどのように使っていますか。

検査と処方内容を確認し、服薬指導に活用しています。例えば、喘息発作で病院に緊急搬送された患者さんが、その後来局した際に当時の状況をご本人やご家族にお聞きしても、具体的な診療内容を聞き取ることは難しいです。「キビタン健康ネット」では注射や吸入、処置内容などを具体的に確認できるので、それをもとに主治医と連携を図っています。

また、しばらくの間来局していない患者さんについて「キビタン健康ネット」で確認したところ、入院していることが分かりました。入院中の情報を確認していたので、退院後に来局した際に、ある程度の状況を把握した状態で話ができるため、スムーズに話を進めることができました。また、入院時の処方内容と比較して説明することで、患者さんの安心にもつながります。さらに、検査値を見て注意が必要な場合には具体的な助言をしたり、良くなっている場合は励ましの言葉をかける

キビタン健康ネット 利用施設の声

第19回



ようにしています。患者さんを励ますことで、患者さんのやる気にもつながります。

◇「キビタン健康ネット」を使い始めて変わったことはありますか。

その場で検査値等を確認できるので、検査結果を持参しなかった場合にも、実際の数値をもとに、より具体的な服薬指導ができるようになりました。

また、薬の量に変更された場合は、「キビタン健康ネット」で検査値と処方内容を照らし合わせるようにしています。変更になった理由について理解できるようになりました。その他にも、複数の医療機関を受診している患者さんの場合、似た作用の薬を別の医療機関で処方されていることがあります。疑義照会をして処方内容が変更になった方もいました。薬の重複を防ぐことにも役立っています。

◇同意書はどのように取得していますか。

複数の医療機関を受診している方や、特異的な疾患で薬の影響が出やすい方を中心に「キビタン健康ネット」を案内しています。『薬の変更点の説明や、薬と人体の影響についての助言ができますよ』と説明し参加いただいています。また、保険証やお薬手帳などにキビタン健康ネット参加中のシールが貼られている方にも声をかけるようにしています。

◇今後、どのようなことを期待していますか。

電子薬歴のタブレット端末で「キビタン健康ネット」を閲覧できるようになると良いですね。現在は「キビタン健康ネット」専用端末で情報を確認し、薬歴の端末に転記しています。同一端末で閲覧可能になれば、二つの端末を行き来することなく、患者さんを目の

前にしてその場で対応することが可能です。さらに、検査値が自動的に電子薬歴端末に移行されるようになると、日常業務の効率化も図れて非常に使いやすくなると思います。

また、「キビタン健康ネット」を通じて病院薬剤師と薬局薬剤師の連携をさらに強めていきたいですね。例えば、文書で情報共有する際に医療機関毎に様式が異なっていますが、「キビタン健康ネット」上で連携することで様式が統一されるようになると、一本化されて分かりやすくなるのではないかと思います。

患者さん向けの案内資料として、「キビタン健康ネット」を活用した事例の資料があると、患者さんも読みやすく興味を持ってくれるのではないかと思います。まずは患者さんが「キビタン健康ネット」について関心を持ってもらえるようなきっかけがあると認知度もあがるのではないかと思います。



代表取締役社長 高野真紀夫さん
高野さん、ありがとうございます。



◇協議会事務局から

多くの県民に関心を持ってもらえるよう、分かりやすい説明資料の作成など検討して参ります。

(レポート 後藤)